

(様式3)

外国人児童・生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

| | | | | | |
|--------------|---|------|-----|-----|--|
| 都道府県名 | 東京都 | 市町村名 | 墨田区 | 大学名 | |
| 派遣日 | 令和 4 年 6 月 10 日 (金) 14:30~16:30 (別添「令和4年度 外国人児童・生徒等指導者研修会次第」参照) | | | | |
| 実施方法 | ※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔 | | | | |
| 派遣場所 | 墨田区役所 13階 131会議室 | | | | |
| アドバイザー氏名 | 築樋 博子 | | | | |
| 相談者 | 墨田区教育委員会事務局指導室長 (令和4年度 外国人児童・生徒等指導者研修会での講義) | | | | |
| 相談内容 | <ul style="list-style-type: none">・日本語通級指導教室教員・日本語指導加配教員・すみだ国際学習センター指導員等の日本語の指導を担当する教職員並びに区内各小・中学校外国人児童・生徒等指導担当者に向けて、「特別の教育課程」と個別の指導計画を活用した校内教職員・支援員間の連携の進め方について・外国人児童・生徒等の異文化適応プロセスを含めた、外国人児童・生徒等指導担当者のコーディネーターとしての役割とその重要性について | | | | |
| 派遣者からの指導助言内容 | <p>1 豊橋市の日本語指導体制</p> <ul style="list-style-type: none">・県独自の設置基準に基づき、半数以上の小・中学校に日本語教育適応学級担当教員が配置されている。・外国人児童・生徒への支援体制づくりのために、日本語指導担当者がコーディネーターとして、教職員とスクールカウンセラー、バイリンガル相談員等の日本語指導に関わる支援者をつなぎ、チームとして対応する体制が必要である。 <p>2 「特別の教育課程」における日本語指導制度</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語指導が必要な児童・生徒に対して授業時間内に行われる指導は、「通常の教育課程」の中で入り込みによる支援を行う場合と、別教室において日本語能力に応じて特別の指導を行う場合がある。別教室における特別の指導には、「特別の教育課程」を編成して行う指導と、「特別の教育課程」を編成しないで行う指導がある。・「特別の教育課程」編成時に使用する様式は、外国人児童・生徒は学齢期での短期間の移動が多く、日本語の能力が多様であることをふまえて、児童・生徒の日本語の学習段階・指導時間・指導形態・指導者を表としてまとめたものとする事ができる。・外国人児童・生徒の日本語能力を判断して指導目標を設定し、能力に応じた日本語の学習内容を決定し、指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価を基に計画の見直しを行う。・「個別の指導計画」の評価においては、使用教材名と手だて・成果と新たな課題・外国人児童・生徒の学習状況が読み取れるような記述を行う。評価は在籍校の担任や教科担当者・日本語指導担当者で共有し、次の指導につなげていくことが重要である。 | | | | |

(様式3)

| | |
|--------------------|--|
| | <p>3 外国人児童・生徒等の異文化適応プロセス</p> <ul style="list-style-type: none">・来日年齢・滞在期間・家庭の教育状況から、児童・生徒が抱える困難と問題を推測して指導に生かすことができる。・文化間移動後の適応の過程は統合・同化・分離・境界化の4つに分類されるが、その人の文化的アイデンティティや特徴が保たれていて、相手文化集団との関係も保持されている状態である統合を目指す。学校においては、日本語指導担当教員が「異文化コミュニケーション」能力を高めて、外国人児童・生徒とその家族のための教育・支援には言語的文化的な多様性に寛容な学校コミュニティの形成に貢献することが期待される。 |
| 相談後の方針の変化、今後の取組方針等 | <ul style="list-style-type: none">・日本語指導担当教員は外国人児童・生徒の日本語指導のコーディネーターであり、その役割は在籍校の教職員と日本語の指導を担当する教職員をつなぐ役割だということを参加者が理解できた。・「個別の指導計画」の活用と評価の改善を図り、在籍校の日本語指導担当教員や担任、日本語指導担当者との連携をさらに強化・充実させていく。 |

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。